

えんかぶ

46年 6月号

(第 100号)

発行所

編集発行人

大分県日田郡中津江村

齋藤隆一

村民と対話を通じた明るい村政を

農林・観光・社会教育の充実へ

中津江村長 齋藤隆一



齋藤村長

この度、村民多数の方の御支持により村長の重責を担うことになりました。皆様の心からの御支援に對し厚くお礼を申し上げます。もとより、浅学非才で欠点だらけの者でございますので今後皆様の御指導と御叱責を戴きたいと思ひます。公約致しました通り清潔で明るく、正しい村政を目標に村民との対話をもとにして、皆様の意志を反映した、村民の皆様と血の通った暖い村政を実施したいと思ひます。

産業観光のルートへ

もちろん、農林業の振興観光の開発、社会教育の充実が重点施策になると思ひますが、基本的に主幹道路の改良舗装、広域的観点に立つた産業観光の振興、特産物の開発を主眼として中津江村の地理的位置、美しい自然特質を生かす如くし、速やかに中津江を九州に於ける産業観光のルート上に乗せることが重要なことと思ひます。

過疎化現象の進む本村の現況では、村の振興開発の前途には種々の困難な問題

があります。これを解決することは容易なことではありません。私は村長一年生として一生懸命勉強して村政に取組みますので、皆様の公僕として充分利用して使って戴きたいと思ひます。

住民サービスをモットに

役場も公民館も新築されました。これは皆様の役場であり公民館でありますから御遠慮なく気軽に御利用戴きたく、また私共も村長以下住民サービスをモットとして村民の皆様へ接したいと存じます。また明るく住みよい村づくりのためには、住民福祉の向上が大切でありますので、特に老人問題、婦人問題、村民の保健衛生等についても充分着意いたしたいと思ひます。

村民の熱意と

活動力に期待

地域部落の生活環境の整備、労働問題、個人の生活設計等につきましても皆様の生活安定に最も関係の

の良き相談相手となり、真に村民から愛され信頼される役場にしたいと思ひます。

深い農協、森林組合の活動育成強化について特に関心を持つものでありまして、組合長以下組合員の皆様の活躍を特にお願いいたしたいと思ひます。これは要しますに、中津江村を住みよい豊かな村とするためには、私一人の力では何も出来ません。皆様一人一人の御協力が必要であります。皆様が選挙期間中に示されましたあの熱意、活動力、政治意識を今後も持続して戴いて村政の上に生かし、私共の先祖がまもり育てて来た愛する郷土を、また、美しい自然と豊かな産物に恵まれた私共の村を本当に住みよい、豊かな村にしようではありませんか。

参議院議員選挙

告示 六月四日
投票 六月二十七日

参議院選挙は全国区選出議員、地方区選出議員の投票です。もれなく投票しましょう。

投票用紙は全国区が、黄色の紙に赤刷り、地方区が桃色の紙に黒刷りです。

六月

十一日は暦の上で入梅と聞いています。年によって多少の早いおそいはいありますが、大体このころまでには梅雨(つゆ)に入ります。梅雨は、梅の実の熟するころの雨。またそのころ(かび)が生えるので徹雨(ばいう)とも書きます。さて一年中でいちばん日が長く、日ざしも強くなる六月は、初夏から真夏へ移りかわるときです。暦のうえでは、立夏から立秋の前日までを夏といいますが、気象の上では九月半ばまでを夏といっています。

野や山は緑一色、ホタルがとびトンボやセミがそろそろ姿を見せます。

六月は一年で最も天候不順、充分衛生に気をつけたいものです。

村の動態

現在	46年 6月 1日
人口	2,705人
男	1,302人
女	1,403人
世帯	1,405戸
基本台帳	7台

ご苦労さま16年間 偉大な業績残す

児塔村長退任



児塔前村長が四月三十日をもって退任いたしました。

氏は昭和三十年村長に就任以来四期十六年間、常に村民の福祉と産業基盤の確立をめざし、数々の施策を行ない今日を築いてこられました。この度高令（八十才）になられ、重責を全うして退任されたものです。

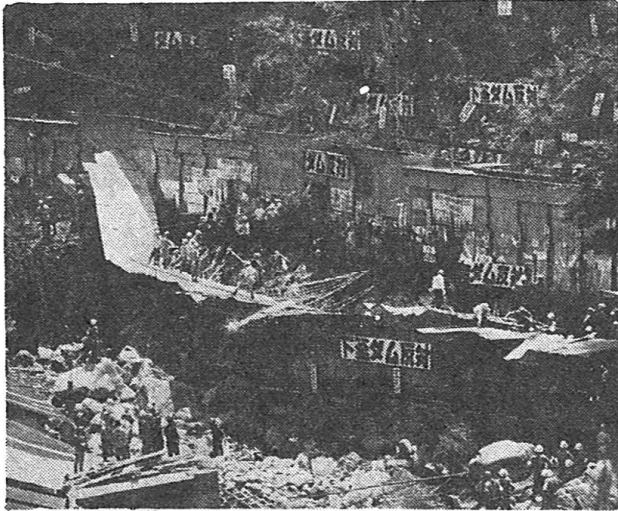
その労苦に対し心から敬意を贈るものです。

心血そそいだ

下うけダム建設

児塔村政の十六年間には、村史始って以来の一大変革といえる下うけダム問題が起こり、文字通り心血そそいで対処しました。

この問題が起こると直ちにダム対策委員会を発足させ、広く水没予定者の意向を求め、またダム関係で何回となく議会を開き村民の声を聞き、起業者の建設省に対し条件つき賛成の意を表しました。以後はダム完

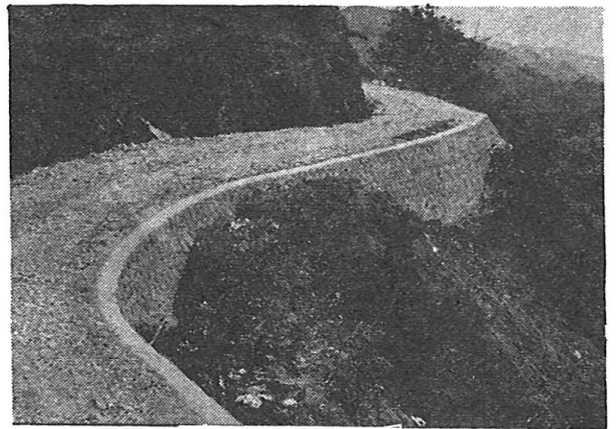


成後の村づくりと水没のため住み馴れた土地を離れ新天地を求めめる方々のため、より幸せな生活が出来るよう日夜努力を重ねました。

産業基盤の確立え

林工事業に取組む

豊富な森林資源は村の主要産業であり、この資源を最大限に活用し、併せて村民の産業経済、福祉行政、教育文化の向上に役立てるべく、昭和三十九年に林業構造改善事業の指定を受け



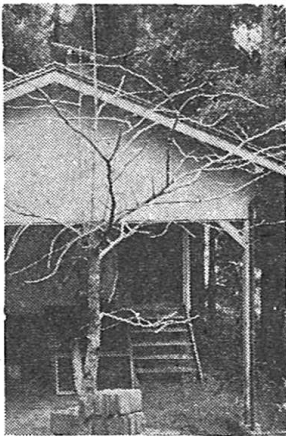
(写真は林道開設)

ことに大なるものがあります。

地方自治の功

叙勲の栄に輝やく

こうした数々の実績は地方自治の範であり、昭和四十年菊おる文化の日、勲五等及光旭日章の叙勲を受けられました事は、同時に村民の喜びであり、



(写真は椎茸乾燥施設)

村議会が発起人になり翌四十二年五月、宮園の自宅庭園に氏の頌徳

翌四十年から三か年間、事業の推進を図りました。

振興山村事業

役場庁舎新築

林構事業に続き、昭和四十三年に振興山村対策事業に取組み、四か年の事業に入っております。

林構でやれなかった諸々の仕事を、この事業で完遂するべくブルトーザー、ダンプカーを導入。さらに時代の要求で役場旧庁舎が手狭になったのと老朽したため、四十四、五両年度で庁舎新築を実現しました。

これ等多くの事業実績を残された児塔前村長の足跡は偉大なものがあります。

香典かえし

さきに祖父の正太郎さんを亡くしました中川内部落の桑鶴国夫さんは、香典返しとして村社会福祉協議会に金一封を寄付されました。紙上をかりて厚くお礼を申し上げます。



新村長・村議誕生!!

明るく豊かな村づくり

一票に託した村民の願い

投票率 九五・一六%

今度の一連の地方選挙で大分県は全国でも指折りの無投票地区が多かったと報じられており

理由はいろいろあれ、これは住民の選ぶ権利の道が閉ざされたものであります。本村では御承知のように空前の激しい選挙戦が展開され、有権者もこれに応えて投票率もグンと上昇。

各候補者は「明るく豊かで住みよい中津江村」の建設のため、忌憚のない政見演説を村内各所で披歴し、村政に対する基本的な考え方、産業政策、社会福祉政策、教育、労働問題、過疎対策などの抱負を部落に入り込んで訴え、有権者の政

治に対する意識は高く、仕事の手を休めて熱心に耳を傾けていました。

ともあれ、多くの問題をか、えた地域山村、中津江村の今後の道は余りにも険



(写真は開票状況)

しく、ひとり為政者のみでなく全村民がうって一丸となり、希望に燃ゆる将来性のある豊かな中津江村を築くべく努力を怠ってはいけません。

(村長選挙)
有権者数 一、九〇〇

議長に長谷部直徹氏
副議長は武原芳郎氏

改選後初議会開かる

改選後の初議会が五月十日召集されました。

この議会は村長提案議案は特になく、議会構成のため議長、副議長議席の決定、各常任委員などの選任であります。

規定により年長議員の永瀬勇氏が仮議長となり、まず議長選任の件。総意にもとづき選挙の結果、長谷部直徹氏が新議長に選出されました。

副議長選任も選挙の結果武原芳郎氏が多数票を獲得して選出されました。

投票総数 一、八〇八
有効投票 一、八〇一
無効投票 七
投票率 九五、一六
(村議選挙)
有権者数 一、九〇〇
投票総数 一、八〇八
有効投票 一、七九九
無効投票 九
投票率 九五、一六

○鷹野 勉 長谷部豪
永瀬 勇 森脇 茂
農林会計委員会
○永瀬勇雄、川良 停
武原芳郎

村に適合した企業の誘致

特産物の育成と社会教育の振興

中津江村議会議長 長谷部 直徹

四月二十五日に執行されました村議会議員選挙には村内多数の方々の御支援によりまして村議会の末席を汚し、かつまた、五月十日の議会におきましては不肖私ごととき者が村議会議長という重責を負うことになりました。御承知の通り若輩の上に未熟者でございます。その責を全うし得るかどうか、甚だ危惧の念を抱いております。先輩諸賢の御指導御鞭撻により粉骨砕心邁進する覚悟であります。

さて本村は、内外的に重大な諸問題が山積しておりその第一は過疎問題であります。下うけダムによる村外転出と、鯛生鉱山の本山閉鉱という致命的な事態に至り、加えて村内に企業が見当たらないものです。幸い、日興産業の誘致は一派の光明を見出したもの

ですが、今後更に努力が必要であります。森林組合の労務組織の拡大強化による労働人口の配分を考えねばなりません。第二に今後五か年にわたる農家にとつてまことに重大問題で減反水田の活用方法転作作物を真剣に考え、更に特産物の育成強化も必要なことでもあります。

第三は県道の改良、全線舗装の早期実現を期待すると共に、林道網の充実、農道の新設を期待します。次に、上・中津江中学校の統合実現と、公民館活動による人づくり、福祉、環境整備の充実、観光問題など山積してあります。

村民各位の御協力を頂き執行部と議会と一致し、村政発展に邁進いたします。宜敷くお願いいたします。



(写真は初議会)

矢原金吾 梶原美民
土木徴罰委員会

生産、教育、社会福祉その他あらゆる面において今後、中津江村が明るい、そしてより住みよく村民がより豊かであるために日夜奮

新村議会議員さん御紹介

平均年齢 55.3才



長谷部秀丸 (田ノ原)

て下さる、
新村議十
六十四才 新

二氏。
卓越し
由緒深い、真宗伝来寺の

た識見を
オジュツ(住職)さん。

持たれ村
以前、本村教育長を長い

民のよき
間勤めた。その面で行政は

協力者で
御存知。瘠身長軀、職業的

あり相談
性格から理論はトウトウトと

役である
述べられる。

方々です。

若い働

き手は流

出し、鯛

生金山の

閉鉢など

何となく

沈んだ空

気が感じ

られます

が、新議

員は村民

と共にこのムードを打破し、

生産意欲の向上に大きなフ

アイトを燃やしております。

(敬称略 届出順)

い時の努力を偲ばせる。
表替えの手さばきはさすが一級品。仕事中でも思ったことはズバズバ。広い額はハゲ上り色黒く、一見豪傑風。



永瀬 勇 (宮園)

六十六才 再

業誘致など村の将来問題な

をせず人と接する。

野田小学校閉鎖、日興産

自家用車を乗り廻すとき

も殆んど地下タビ姿が多い

温厚な人柄で誰彼の区別

をせず人と接する。

豊豆富な識見と

愛郷心にもゆる

人の世話、人の為なら我が身をいとわず一生懸命に

努力する。多くの人の信望

は特に厚い。生産問題、減

反問題などで隘路の多い農

協運営に献身的努力をする

農協組合長。



川野 信男 (野田)

五十一才 再

と店を構え、多種多様の事

業経営、一見ヌーボーとし

た風格ながら連続の質問。

消防団副団長。交通安全

協会長など六面八ピ。

不断は無口の部類

川良 停 (鯛生)

六十才 再

青年的精神の持主。誰かれの区別なく気さくに応じ

る。意見も遠慮なくオツシ

ヤル。村の主産業の基幹た

る森林組合参事。卒先して

脚ハン地下タビの装束で山

野をかけめぐる。



梶原 美民 (川辺)

四十八才 新

適当にユーモアを交える

話術は独特。額が近年ズツ

と広くなって来た。家業

(商業) 関係で外出の多い

いわゆる外交型の好漢。

民生委員など活躍中。家では配達夫的存在。
鷹野 勉 (栃原)

永瀬 勇雄 (堤)

五十四才 再

思った事はズバリ一気に

吐き出す、反面人の意見も



よく耳を傾ける。

短身瘠軀で精力的にかけ

ずり廻る。村外へ越境?す

る事も再々。

黒髪今なお全毛健在



長谷部直徹 (合鶴)

四十四才 再

色黒くヒゲ濃ゆし、モミ

アゲがヒゲと連なり体格堂

々、野武士的風格

談論風はつ、笑い声はま

ことに豪放、年のわりにテ

ッペンが少々薄くなりつ、

あり、質疑あくまで追及。

(次頁へつづく)

森林資源の育成を

自立前進するグループ

津江林業研究会

将来に向って津江林業の

育成を更に進めるための研

究グループが、林業構造改

森脇 茂 (市の瀬)



四十九才 新

純百姓。強く辞退したが
地区民から人柄を買われ推
薦さる。小柄な体でヒョウ
ヒョウとした中にシンの強
さを示す。

農協監事。年の割に若づ

くり。



矢原 金吾 (栃原)

六十一才 再

村に一人しかいない歯医
者さん。前村会議長時代は、
本職より議長としての仕事
のためか医院不在の事が多
かった。議会人としてのキ
ャリアは豊富の部類。

前、県町村議長会副会長。

育成を更に進めるための研

究グループが、林業構造改

善事業発足と共に結成され

その一端として、林業教室

が開講されました。

このグループが全国的に

連合され、結成して五年目

を迎えたのであります。

現在の木材業界の不況は

御周知のとおりであります

が、この不況に耐えたいず

らに心を痛めるばかりでは

林業人として愚劣であり、

失格者であらうかと思いま

す。この苦境を乗り越える

意志こそ農林業後継者とし

て自分の故郷を愛し、村を

栄えさせる共通の力でなく

てはなりません。

津江林研グループは、こ

のような考え方から上津江

村四名、中津江村十名と人

員こそ少ないが農業を含め

森林を育て、椎茸を生産す

る精鋭の士が参加していま

す。これからの津江地区の文

化的、経済的繁栄は観光と

森林産業の充実が急務と確

信するものであり、津江林

研は広く視野を求めするため

県下のグループ活動の実態

について交換会を始めとし

県下一円にわたる広域研修

はもちろん、県林政課、日

田事務所林業課その他行政

機関の指導を受け、本来の

目的に向って研さんを重ね

ております。

更にお互の緊密な連絡と

グループ員の親睦と調和を

兼ねた、先進地の研修視察

など、林業全般にわたって

の知識の啓発と交流をして

いるものです。

実践の場

「青年の山」造成

林研の直接研修の場とし

て、かねてから国、県補助

による「青年の山」の造成

を督励され、津江林研とし

ても実践活動の場として、
斉藤隆一氏所有地(地蔵元)

に二、五ヘクタールを分収

契約し、全員一致協力して

去る四月中旬に完成し将来

に向って大きな希望が生ま

れました。

津江林研グループの「青

年の山」は優良材生産と実

践活動を通じ、技術知識の

開発と交流に合わせ企業利

益の追及、地域の森林産業

の基礎とならなければなら

ないと念じております。

このグループが自立前進

し得るモデルグループに成

長することを前提として、

村内青年に呼びかけ第二期

生を募集し、「青年の山」

を次々と造成してゆきたい

と思っています。

ともあれ、会員全体がそ

の意志を共鳴し、未長く相

互の糸乱れない調和を信

念じています。

昭和四十六年四月

津江林研グループ

会長 永瀬 喜市

吉野林業研修会に参加して

森林組合 永瀬 康敏

全国に誇る日田林業を、

更に弾力性のある計画林業

に築き上げいつの時代でも

対応力のある日田林業

として伸ばす後継者として

磨き丸太を中心とした林業

技術を奈良県吉野地方で研

修を受けましたので、その

要点を報告します。

※造林 使用苗木の五十%

は自家生産苗木で、スギは

二年生、ヒノキ三年生のも

のを二、三月に植え付けま

す。秋植えは少なく植栽密

条とし、当初の目的達成と

その指針を確立する次第で

あります。

津江林研グループの生い

立ちと信条、目的を御紹介

いたしますと共に各位の適

正なる御意見、アドバイス

御支援をお願い申し上げます。

が条件とされこの目的に
じた時期が選ばれます。
間伐は目標伐期により違

ります。
三年目頃から大きい順に伐

ります。
※磨き丸太・鑄丸太 般出

はキズの入るのを恐れほと
んど人肩によります。製材
乾燥にしても気象条件、倉

庫の換気に注意が払われま
す。出荷前に川砂で磨きを
かけるなど商品として最大
の努力が払われています。

山村経済をとりまく状況
はきびしく、収入の増大と
安定林業を営営するには日
田林業も大いに考へねばな
らないと思えます。

釣りの観光地に

ワカサギの卵放流

昨年、鯉の子一万匹余りを放流したのが今では三十センチ位に成長しているようです。

下うけダムを「釣り場の名所」にしたいことから、去る四月下旬に直入郡芦川ダムから取り寄せた「ワカサギ卵」二十万粒を放流しました。

この魚は白ハエに似ていますが、白ハエよりも少し長めの魚で成長しても十五センチ程度の大きさのもので非常に繁殖のよい魚です。うまくふ化して生育しますと例年十一月月上旬から三月一杯がよく釣れる時期といわれています。何一つクセのない魚で食べよいこととみんなから好かれています。

引続いて下うけダムに鯉の稚魚二万匹を、津江川、上野田川、川原川の各上流にエノハ三万匹を宮崎県から取寄せ放流し、下うけダムを鯉、ワカサギに、上流地域をエノハの名所にして地元はもちろん、他の地方からの釣り客にも喜んでもらう魅力のある釣り場にした計画です。

みなさんからのご協力をいただき、釣り観光に役立つスポーツ安全協会

傷害保険の発足について

近年社会体育、スポーツレクリエーション活動の普及に伴ない生じる傷害事故に對し、全国組織としてスポーツ安全協会が設立され、傷害補償事業を始めることになりました。損害保険会社と締結した契約に基づき補償事業を行います。詳しいことは教育委員会へお尋ね下さい。

下うけダム

◆農協だより◆

第23回通常総会開催

出席組合員二二九名

昭和四十五年度、第二十三回通常総会が五月六日午前十時から農協二階の会議室で開かれました。

次長)から「農業情勢は近年とくにきびしくなってきた(写真は超満員の総会場)

生産調整、減反問題など山村農業のゆく手は余りにもきびしく、組合員総計三百八十四名のうち出席者二百二十九名(うち委任三十七名)を数え、終始、真剣な質疑が行われました。

組合長の開会宣言に続いて県事務所長(代理、安達



ており、農家個々の力を結集し農協を中心として対処しなければならぬ」とのあいさつがありました。

引続いて齋藤村長の「本村のように山村農業は、ひとり農業自立は実に隘路が多い、農業者が一致して農協をより強化することはすなはち農家の経済安定につながるものと信じます。本村は農協も勿論であるが森林組合も更に飛躍し、住民が

自己資本の

出資増強を

より豊かな生活を営まねるようになるべきである」とのあいさつがありました。

議長に岩本重信氏を推せん、直ちに議案審議に入りました。安岡参事より提案内容の説明があり、活潑な質疑が行なわれました。

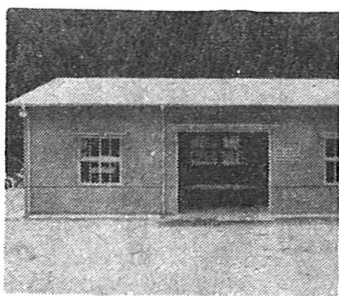
新年度計画案では特に「幸をみんなて築くための農協強化」でなくてはならず当然、農業政策の変化の中の農業経営は、営農と生活、村経済発展につながるべからず、このため組合

「運転開始」

うめ選果機

中津江農協の「うめ」選果所が完成し、選果機の導入据付けも終りいよいよ今年の選果から威力を発揮することになりました。

この事業は振興山村特別開発事業として着工され、総事業費三百六十二万円、(建築費二百八十六万円、選果機械七十六万円)で昭和四十五年度事業として農協倉庫裏に建築されました。構造は軽量鉄骨造りスレート葺平屋建、建坪百六十五平方メートルです。



(写真はうめの集荷所) 据付けられた選果機は松山市の仙波農機製作所のもので、この種の機械では最新鋭機で性能も抜群といわれています。